

令和3年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(数学)科目：(数学Ⅰ) 対象：(第1学年1組～5組)

科目担当者：(1・2組／3・4組：M1:武居悠太^① M2:荻野賢治^② M3:村岡晶子^③ M4:青柳健太郎^④)(5組：M1:武居悠太^① M3:村岡晶子^③ M4:青柳健太郎^④)

教科・科目の 指導目標	・中学校までに学習した基本的な内容を身に付ける。 ・文字を扱った式の計算ができるようになる。
----------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	小数、分数の四則計算ができない生徒も多く、小学校、中学校の基本事項の理解が不十分である。また多くの生徒に数学への苦手意識が根付いている。 ※本校では学力検査による入試を実施していないため、年度当初の授業中の生徒観察から判断した。	1 小学校および中学校1年生の復習からスタートし、年間を通して中学3年生までの基礎基本の計算や知識を習得させる。そして、高校1年生の数と式および2次関数における基礎基本の考え方・計算力を習得させる。 2 分野によってはオリジナルのプリントを利用して、生徒に学習してほしい最低限の計算や知識を習得してもらう。 3 シンプルな説明をして、演習時間、質問時間を確保する。また習熟度別授業によって手厚い指導をしていく。	1 解き方を何度も繰り返し、誰もが答えやすい質問を行うことで、「できる」という成功体験を多くさせる。 2 習熟度授業の強みを活かし、個々の疑問に対応できる体制をとる。 3 本校独自のカリキュラムを組み、生徒にあった内容(小学校～中学校～高校1年[数と式]・[関数])を1年かけて指導していく。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			